

事務事業名(細目)	観光協会等支援事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 002 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	3	好きなまちで働く(社会増促進)	事業開始年度	H 17	評価区分	事業種別	計画
		朝来の強みを活かした観光振興				1.ソフト事業	
事業の目的	観光振興を図り、交流人口を増加させ、地域産業、経済の発展につなげて、市の活性化に寄与するため、市内観光協会事業及び市内観光イベント実行委員会へ補助を行う。						
事業の実施内容等	各観光協会、各イベント実行委員会等へ補助金による支援を行い、地域の活性化を図った。 ■観光協会 生野町観光協会(補助金:1,828,000) 和田山町観光協会(補助金:1,348,000) 朝来市山東町観光協会(補助金:741,000) 朝来市あさご観光協会(補助金:133,000) ■イベント 和田山夏祭り(補助金:2,454,000) わだやま竹田お城まつり(補助金:1,068,000) 竹田秋祭り(補助金:67,000) 立雲岫さくら祭り(補助金:160,000) 山東夏祭り(補助金:1,264,000) 朝来夏祭り(補助金:1,686,000) へいくろう祭り(補助金:329,000) 銀谷祭り(補助金:1,353,750)						

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
14.使用料及び賃借料	879,120	花火大会安全設備設置	1,361,880
19.負担金補助及び交付金	12,431,750	各観光協会、各イベント実行委員会への補助金	12,443,000
合計	13,310,870		13,804,880
財源内訳			
特定財源			
国庫支出金	0		0
県支出金	0		0
地方債	2,000,000	過疎地域自立促進特別事業債	0
その他	8,803,000	ふるさと創生基金繰入金	0
一般財源	2,507,870		13,804,880
合計	13,310,870		13,804,880
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

[1]節区分	[2]説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
12.役員費	花火大会安全設備設置手数料	0	220,500	0	0
14.使用料及び賃借料	花火大会安全設備賃借料	0	0	1,361,880	879,120
18.備品購入費	花火大会目隠しネット	0	491,400	0	0
19.負担金補助及び交付金	各観光協会、各イベント実行委員会への補助金	12,986,000	13,258,000	12,443,000	12,431,750
事業費計		12,986,000	13,969,900	13,804,880	13,310,870
[4]正規職員人件費		12,044,000	6,994,000	13,089,000	11,388,000
[6]臨時職員人件費		920,000	1,339,000	1,499,000	2,389,000
[6]総合計		25,950,000	22,302,900	28,392,880	27,087,870
財源内訳					
特定財源					
[7]国庫支出金				0	0
[8]県支出金				0	0
[9]地方債				0	2,000,000
[10]その他				0	8,803,000
[11]一般財源		25,950,000	22,302,900	28,392,880	16,284,870
[12]合 計		25,950,000	22,302,900	28,392,880	27,087,870
[13]国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

[1]事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
補助団体数	団体	12	12	12	12
<変化の理由> 補助団体の数に変化はない。					
[2]事業の成果を表す数値	単位	年 度			
観光客入込客数		千人	2,147	2,594	2,618
<変化の理由> 竹田城跡の入込数は平成26年度にピークを迎えたが、平成27年度はバス料金値上げなどによる日帰り団体観光の激減により、総数も減少に転じた。					

5. 成果単位あたり金額(円)

[1]単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
観光客入込客数	12.087	8,598	10,845	11,056
<変化の理由及びそれへの対応策> 平成25年度に、支所の観光協会事務職員の欠員があり人件費が少なくなっている。				

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	観光連絡協議会による情報共有の重要性(各観光協会)
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	・豊岡市出石町では早くから観光協会の法人化が進んでおり戦略的な観光事業展開を行っている。 ・豊岡市ではDMOを設立し観光プロモーションを行っていく予定 ・神戸市観光協会は神戸商工会が事務局となって事務を実施している
[3]代替サービスの有無	無

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◆しばらく継続して実施するが、今後、観光協会等のあり方について連携、統合への見直しが必要である。 ◇観光協会事業やイベント事業補助については、受益者負担を導入しているが、夏祭り等同様の内容やサービス対象があいまいなところもあり、改善の余地がある。 ◇イベントについては、隠わいの創出と市民が関われる最も身近な観光事業であるため、積極的な市民参画とPRを図ってきたい。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◇今後、観光協会等のあり方について連携、統合等の見直しが必要であり、補助金額の再検討も考える時期にきている。 ◇観光イベントなどの補助金については、今後経済効果を把握し費用対効果を検証していくことも必要になってくるものと思われる。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	全体としては、改善見直し1票、抜本的見直し6票であった。 議論としては、事業の目的を踏まえると、地域の方々の親睦と観光振興を切り分けること、市としてのどのように全体をマネジメントするのかの機能の必要性などの議論があった。 竹田城跡を生かした観光等について、国内外の関心ある方々にわかりやすく、情報発信をすることの重要性の議論があった。
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	拡大を前提とした改善見直しとする。 今後、観光協会等のあり方について連携、統合等の見直しが必要であり、補助金額の再検討も考える時期にきている。また、観光イベントなどの補助金については、各イベントの評価を行い、補助金支出のバランスや基準を整理する必要がある。
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	但馬・食文化まつり事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 004 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く(社会増促進)		事業開始年度	評価区分	計画
	3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	平成6年に開催された「但馬・理想の都の祭典」イベント「但馬・食文化プラザ」の趣旨「但馬の食文化の継承と創造、交流人口の創出」の精神を継承して、但馬の3市2町がそれぞれの特色を活かした食文化を紹介するなど情報を地域内外に広く発信し、農村と都市の交流を深めて、但馬地域の産業振興に寄与するため但馬・食文化まつりを開催する。				
事業の実施内容等	■但馬・食文化まつり (1)テーマ:食材の宝庫―但馬・お国自慢 (2)開催時期:10月24・25日 (3)主催:但馬・食文化まつり実行委員会 (4)入場者数:約32000人 (5)イベント:お国自慢バザール、但馬・うまいもん村、展示・PR、ステージ・芸能披露ほか				

2. 事業費等(単位:円)

事業費内訳	節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
		11.需用費	0	芝生修繕
	19.負担金補助及び交付金	3,000,000	但馬・食文化まつり補助金	4,000,000
	合計	3,000,000		4,151,833
財源内訳	特定国庫支出金	0		0
	特定県支出金	0		0
	特定地方債	0		0
	特定その他	3,000,000	ふるさと創生基金繰入金	4,000,000
	一般財源	0		151,833
	合計	3,000,000		4,151,833
	国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
11.需用費	芝生修繕	0	0	151,833	0
19.負担金補助及び交付金	但馬・食文化まつり補助金	3,000,000	3,000,000	4,000,000	3,000,000
事業費計		3,000,000	3,000,000	4,151,833	3,000,000
【4】正規職員人件費		3,774,000	5,003,000	3,551,000	3,575,000
【5】臨時職員人件費		26,000	0	0	26,000
【6】総合計		6,800,000	8,003,000	7,702,833	6,601,000
財源内訳	待【7】国庫支出金	0	0	0	0
	定【8】県支出金	0	0	0	0
	財【9】地方債	0	0	0	0
	源【10】その他	3,000,000	3,000,000	4,000,000	3,000,000
	【11】一般財源	3,800,000	5,003,000	3,702,833	3,601,000
	【12】合 計	6,800,000	8,003,000	7,702,833	6,601,000
	【13】国庫支出金を除いた比率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
出店数	団体	72	74	76	75
<変化の理由> 会場のキャパシティは変わらないので、出店数に大きな変化はない。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
参加者数	人	31,000	29,000	34,000	32,000
<変化の理由> 平成25年度は悪天候により客足が遠のいた。平成26年度は夢但馬2014のオープニングとして春に実施したため増加している。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
参加者数	219	276	227	206
<変化の理由及びそれへの対応策> 平成25年度は悪天候により来場者数が減少したことに加え、会場レイアウトの一部見直し等も含め人件費の増加があったが、雨天により入場者数も減少し単価が上がっている。				

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	・よさこいを復活させてほしい
[2]近隣市町で提供されて いるサービス水準との比較	・但馬まるごと感動市(食の祭典であり規模も大きい。)
[3]代替サービスの有無	・但馬まるごと感動市

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◆現状での事業を継続実施する。 ◇平成6年に開催された但馬理想の都の祭典の一環として実施され、但馬・食文化まつり実行委員会により継続実施されている。 ◇但馬地域全体の食の文化をPRし、都市と但馬地域の交流を促進するための広域事業であり、会場となる朝来市が費用を負担し、中心となって行う必要がある。 ◇コストの削減、都市部へのPR方法等手法の改善が必要である。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	◇市民ニーズの把握は難しいが、但馬の玄関口として但馬の食文化イベントによる産業・観光振興に寄与していく必要がある。 ◇市民ニーズの把握は難しいが、但馬の玄関口として但馬の食文化イベントによる産業・観光振興に寄与していく必要がある。
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	1		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

B. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◇平成6年に開催された但馬理想の都の祭典の一環として実施され、但馬・食文化まつり実行委員会により実施されているが、実際は観光交流課が担当している。 ◇コストの削減、都市部へのPR方法等手法の改善が必要である。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	◇市民ニーズの把握は難しいが、但馬の玄関口として但馬の食文化イベントによる産業・観光振興に寄与していく必要がある。 ◇体制的に難しいかもしれないが、今後は、新たなグルメの発信の場として活用するなど、毎年同じ内容ではなく、戦略を立てて実施する必要がある。
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	産業や観光に寄与するよう積極的なPRを進めるべきである。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	観光交流キャンペーン事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 200 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く《社会増促進》	事業開始年度	評価区分	計画
3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	1. ソフト事業
事業の目的	朝来市への観光入込客数など交流人口の増加により、市の観光振興、地域産業及び地域の活性化に寄与するため、戦略的な観光PRを行う。			
事業の実施内容等	■ 朝来市観光PR特急バス広告事業(年間維持費+リニューアル費)【平成22年度～】 神戸方面の全但特急バスの車体に観光写真をラッピング。 ※27年度はデザインリニューアル実施 ■ 朝来市観光PR事業 ・パンフレット、雑誌、新聞等による観光PRや広告宣伝 ・旅行エージェント等へのプロモーション活動 ・但馬のまほろばPEPPER観光案内業務 ・各種観光展覧(ツーリズムEXPO 等) ■ 朝来市観光大使、元気あさご応援隊事業【平成23年度～】 ・観光大使、応援隊の活動支援 ■ 朝来市ぶらり観光スタンプラリー事業 ・着地型観光促進(市内周遊事業) ■ ちゃすりんPR事業 ・朝来市のマスコットキャラクター「ちゃすりん」を活用した観光PR、ノベルティ配布 ■ あさごフォトコンテスト事業 ・市内風景を被写体としたフォトコンテストの実施。 ■ 交通対策事業 ・但馬周遊バス「たじまわる」 負担金: 県2/3、実施市町1/3 ■ 観光交流キャンペーン事業人件費 ■ 地域おこし企業人交流プログラム事業(観光振興強化事業)			

2. 事業費等(単位: 円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
7. 賃金	0	(別計上)	0
8. 報償費	358,775	講師謝礼、観光大使謝礼、フォトン賞金	55,800
9. 旅費	747,650	セミナー、会議、プロモーション、キャンペーン旅費	380,230
11. 需用費	5,182,114	消耗品、朝来市観光パンフ印刷	5,052,244
12. 役務費	2,965,694	郵便、手数料、広告料	1,607,990
13. 委託料	802,736	PEPPER観光案内業務、森林観光資源調査	0
14. 使用料及び賃借料	334,332	イベント資機材借上料、出展料	0
18. 備品購入費	0	備品購入費	27,000
19. 負担金補助及び交付金	2,338,000	たじまわる負担金、地域おこし企業人負担金(人件費で別計上)	2,526,000
合計	12,729,301		9,649,264
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0
	地方債	県支出金	0
	その他	地方債	0
	一般財源	その他	17,850
	合計	一般財源	12,711,451
合計			9,649,264
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

観光交流キャンペーン事業

3. 事業費等の推移(単位: 円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
1. 報酬	嘱託職員	0	0	0	0
8. 報償費	講師謝礼、観光大使謝礼、フォトン賞金	342,960	658,500	55,800	358,775
9. 旅費	セミナー、会議、プロモーション、キャンペーン旅費	473,891	535,200	380,230	747,650
11. 需用費	消耗品、朝来市観光パンフ印刷	3,317,394	5,454,690	5,052,244	5,182,114
12. 役務費	郵便、手数料、広告料	2,399,522	3,206,827	1,607,990	2,965,694
13. 委託料	観光案内業務、調査委託、警備委託	4,158,000	161,300	0	802,736
14. 使用料及び賃借料	イベント資機材借上料、出展料、車借り上料	785,300	1,176,500	0	334,332
15. 工事費	観光案内看板設置	0	4,586,400	0	0
18. 備品購入費	備品購入費、着ぐるみ制作	556,000	0	27,000	0
19. 負担金補助及び交付金	たじまわる負担金、地域おこし企業人負担金	0	0	2,526,000	2,338,000
事業費計		12,033,067	15,799,417	9,649,264	12,729,301
[4] 正規職員人件費		8,670,000	12,116,000	8,984,000	14,207,000
[5] 臨時職員人件費		367,000	535,000	3,078,000	2,259,000
[6] 総合計		21,070,067	28,450,417	21,711,264	29,195,301
財源内訳	特 [7] 国庫支出金	0	0	0	0
	定 [8] 県支出金	0	0	0	0
	財 [9] 地方債	0	0	0	0
	財 [10] その他	352,710	413,540	273,110	17,850
	[11] 一般財源	20,717,357	28,036,877	21,438,154	29,177,451
[12] 合計	21,070,067	28,450,417	21,711,264	29,195,301	
[13] 国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
＜変化の理由＞					
【2】事業の成果を表す数値					
	単位	24年度	25年度	26年度	27年度
観光客入込客数	千人	2,147	2,594	2,618	2,450
竹田城跡を除く観光客入込客数	千人	1,875	2,086	2,035	2,034
＜変化の理由＞ 竹田城跡の入込数は平成26年度にピークを迎えたが、平成27年度はバス料金値上げなどによる日帰り団体観光の激減により、総数も減少に転じた。 城跡を除く入込数は大きな変化はない。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
観光客入込客数	9,814	10,968	8,293	11,916
＜変化の理由及びそれへの対応策＞ 平成25年度は観光案内看板を整備したためハード事業費が発生している。 平成26年度からは地域おこし協力隊、平成27年度は地域おこし企業人を課に迎え、観光プロモーション活動を積極的に展開、旅費などのほか正規職員人件費が増大している。また平成27年度は全但バスラッピングのリニューアルを行ったため、広告費も増加している。				

観光交流キャンペーン事業

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	・観光の受入れ体制ができていない ・経済的視点で見て地域が潤うしくみを考えるべき ・観光の方向性「観光振興による朝来市の活性化」
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	・各自治体ごとで独自の取り組みを行っている
[3]代替サービスの有無	無

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	3	○ 拡充	◆現状の事業を拡大して実施する。 ◇インバウンド需要など観光入込客数の増加による市の観光振興、地域産業育成、地域の活性化など地方創生の観点から優先して実施すべき事業である。 ◇関係団体と協働しながら、市が率先して戦略的にプロモーションを実施していく必要がある。 ◇市民意向調査では、観光イメージ・ブランドの確立、都市圏に向けた情報発信、グルメ・特産品の開発といった施策への期待が高い。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	3	○ 拡充	観光振興に当たってのPR事業は、避けては通れない施策である。一時評価の評価理由とともに、十分な市場調査を行って、全方向的に施策の実施でなく、ピンポイント的を待たPR方法、情報発信方法が今後の課題である。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
○ 拡充	二次評価のとおりとする。
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	道の駅施設整備事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 301 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く(社会増促進)	事業開始年度	評価区分	計画
3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	3.施設等整備事業
事業の目的	観光客の市内周遊の拠点として、道路を利用する観光客への利便性を図るため、休憩機能の充実、道路情報、地域の観光情報等を発信するほか、地域との連携による農産物や特産品等を販売することで、地域の活性化を図るため道の駅を整備する。			
事業の実施内容等	道の駅「フレッシュあさご」 ○通路屋根設置工事 L=23.5m 道の駅「但馬のまほろば」 ○増築工事(第3期) 513 m ² ・売り場面積の拡張 ・農産物集荷機能 ・新農産品開発ラボ機能 ・行政情報コーナー拡充 等 ○事務所棟改修工事 52m ² ・事務所棟の2階化			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
12. 役務費	0	確認申請手数料	68,000
13. 委託料	4,043,736	設計監理委託料	5,965,920
15. 工事費	168,503,340	まほろば増築、フレッシュあさご通路屋根工事	12,420,000
18. 備品購入費	2,593,964	まほろば備品購入	0
19. 負担金補助及び交付金	0	改修工事負担金	994,000
合計	175,141,040		19,447,920
財源内訳	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債	165,900,000	観光施設整備事業債
	その他	3,636,000	地域産業活性化事業基金繰入金
一般財源	5,605,040		13,910,800
合計	175,141,040		5,537,120
国庫支出金を除いた比率	100.00%		19,447,920

道の駅施設整備事業

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
12. 役務費	確認申請手数料	0	0	68,000	0
13. 委託料	設計監理委託料	0	0	5,965,920	4,043,736
15. 工事費	施設整備工事請負	4,053,000	8,951,250	12,420,000	168,503,340
18. 備品購入費	施設備品購入費	0	556,500	0	2,593,964
19. 負担金補助及び交付金	工事負担金		0	994,000	0
事業費計		4,053,000	9,507,750	19,447,920	175,141,040
【4】正規職員人件費		1,329,000	1,206,000	2,379,000	3,902,000
【5】臨時職員人件費		0	0	0	0
【6】総合計		5,382,000	10,713,750	21,826,920	179,043,040
財源内訳	特【7】国庫支出金	0	0	0	0
	定【8】県支出金	0	0	0	0
	財【9】地方債	0	0	0	165,900,000
	源【10】その他	3,636,000	9,507,750	13,910,800	3,636,000
	【11】一般財源	1,507,500	1,206,000	7,916,120	9,507,040
	【12】合計	5,382,000	10,713,750	21,826,920	179,043,040
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
<変化の理由>					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
道の駅面積	m ²	3,021	3,021	3,021	3,586
<変化の理由> 平成26年度～27年度に、但馬のまほろばの第3期増築工事を実施。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
道の駅面積	1,782	3,546	7,225	49,928
<変化の理由及びそれへの対応策> 平成26年度～27年度に、但馬のまほろばの第3期増築工事を実施。床面積に対し人件費も含めた事業費の大幅増があった。				

道の駅施設整備事業

6. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅ようか但馬の蔵 ・道の駅但馬乗座 ・市川ISA
【3】代替サービスの有無	無

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	3	拡充	◆平成27年度は一時的な整備工事であり、事業縮小する。 ◇整備費用については、毎年度受益者の負担により基金積立している。 ◇施設整備については、経年劣化による修繕については年次計画を策定するとともに、誘客機能向上のための施設整備については、収益予想等を検討したうえで、事業内容の検討を行っていく必要がある。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	○ 改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	3	拡充	一次評価理由でもあり、年次計画もさることながら、市場調査を導入し、ニーズを把握し、コストパフォーマンスを重視するような事業内容の精査が課題である。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	○ 改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	誘客機能の向上を図るため改善見直しをすること。
継続実施	
○ 改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	山城サミット開催事業	担当部課	竹田城課
予算コード	07 - 01 - 03 - 201 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く(社会増進)	事業開始年度	評価区分	計画
	3 朝来の強みを活かした観光振興	H 24	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	<p>「天空の城」として全国的に認知されるようになった竹田城跡だが、入城者数に減少傾向がみられる。一方、全国的に見れば各城郭の入城者数はいまだ増加傾向にあり、「お城ブーム」は続いていると考えられる。また現在のお城ブームは「山城ブーム」でもあり、一般に馴染みのなかった山城も「天空の城」等として取り上げられる機会が増えている。</p> <p>これらの状況のなか、全国山城サミット連絡協議会や全国城郭管理者協議会の活動を通し、各城郭と情報共有し、相互の連携を強化し、竹田城跡の観光施策に活用する。また、全国山城サミット連絡協議会については固定事務局を担い、情報発信や自治体間の連携強化に努める。</p>			
事業の実施内容等	<p>●全国山城サミット連絡協議会関連 ・「第22回全国山城サミット米原大会」への参加(平成27年10月) ・情報共有に関する課題及び対応策のアンケート調査</p> <p>●全国城郭管理者協議会関連 ・「全国城郭管理者協議会」総会への参加(静岡県浜松市:平成27年7月)</p>			

2.事業費等(単位:円)

事業費内訳	節区分		平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
	8.報償費				
9.旅費			168,950	山城サミット(米原)参加、次回打合せ、全城郭総会参加	78,440
11.需用費			9,084	各種消耗品	171,821
12.役務費			1,866	山城サミット事務局書類郵便	108,000
19.負担金補助及び交付金			25,000	全国城郭管理者協議会負担金	25,000
合計			204,920		494,261
財源内訳	特定財源	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			222,000
	一般財源		204,920		272,261
合計			204,920		494,261
国庫支出金を除いた比率					100.00%

山城サミット開催事業

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
8.報償費	H25サミット開催時講師等旅費、H26全城郭総会開催時講師等旅費		388,400	111,000	
9.旅費	職員出張旅費、H25サミット開催時講師等旅費	72,750	296,940	78,440	168,950
11.需用費	各種消耗品		3,086,431	171,821	9,084
12.役務費	山城サミット事務局郵送料等		399,222	108,000	1,866
13.委託料	H25サミット開催時整備委託料等		467,223		
14.仮用料及び賃借料	H25サミット開催時資材・土地等使用料		1,769,400		
19.負担金補助及び交付金	全国城郭管理者協議会負担金		25,000	25,000	25,000
事業費計		72,750	6,432,646	494,261	204,920
[4]正規職員人件費		11,516,000	8,135,000	5,320,000	2,240,007
[5]臨時職員人件費				268,000	
[6]総合計		11,588,750	14,567,646	6,082,261	2,444,927
財源内訳	特【7】国庫支出金			0	0
	定【8】県支出金			0	0
	財【9】地方債			0	0
	源【10】その他			222,000	0
	[11]一般財源		11,588,750	14,567,646	5,860,261
[12]合 計		11,588,750	14,567,646	6,082,261	2,444,927
[13]国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
全国山城サミット連絡協議会加盟自治体数	市町村	85	89	89	90
<p><変化の理由> ほぼ毎年加盟したいとの問い合わせを受けており、昨今の城ブームを受けてのことと考えられる。</p>					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
全国山城サミット参加自治体数	市町村	20	19	15	24
<p><変化の理由> その年によって増減はあるが、概ね横ばい傾向と判断される。サミットの開催は、加盟市町村の持ち回りとなっており、比較的地方の市町村で開催される場合、参加自治体数が少ないことが考えられる。また、各自自治体の予算が付かず参加できないと可能性があげられる(その自治体にとって山城サミットの優先順位は高くないことが想定される)。</p>					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
全国山城サミット参加自治体数	579,438	766,718	405,484	101,872
<p><変化の理由及びそれへの対応策> 山城サミット開催年度(H25)が突出しているが、その他の年は成果数値である。山城サミット参加自治体数によって大きく変動している。今後も参加自治体数が増加するよう、山城サミットの情報発信や平日頃からの情報共有・連携に努めていく。</p>				

山城サミット開催事業

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	朝来市の他に参加している県内市町として、全国山城サミット連絡協議会では、姫路市、宍粟市、上郡町が、全国城郭管理者協議会では、姫路市があげられる
[3]代替サービスの有無	加盟団体が全国にわたっており、民間における代替サービスは無いと認知している

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	○ 拡充	拡充すべき事業として考える。竹田城跡の入城者数に減少が見られ始めた今こそ新たな施策を実施する必要があり、山城サミット・全城郭を通じて他の城郭と情報共有し、連携し、お互いの施策を参考にする。竹田城跡の活用を考える上で必須のことである。今後も全城郭の総会・研修会に参加し、各城郭における現状や施策について積極的に情報共有を行う。また山城サミットについても、固定事務局としてサミットの開催のサポートを行い、加盟自治体間のネットワーク強化・拡大のために必要な施策を実施する。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
主体の妥当性	3	改善見直し	
直接のサービスの相手方のひろがり	2	抜本的見直し	
B 事業手法の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	○ 拡充	継続実施と考える。竹田城跡への入込数は平成26年度582,282人で一クを打ち、平成27年度は、416,008人で28.6%の減となった。その中で、山城サミット、全城郭と連携を図りながら施策を展開することは当然ながら必要であるのは理解するが、現状予算の範囲内で、効率的なPR、情報共有、ネットワークの強化の方法を再検討することが必要である。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
主体の妥当性	2	改善見直し	
直接のサービスの相手方のひろがり	2	抜本的見直し	
B 事業手法の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続実施	
○ 改善見直し	
○ 抜本的見直し	
○ 休止	
○ 廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
○ 拡充	二次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
○ 改善見直し	
○ 抜本的見直し	
○ 休止	
○ 廃止	

事務事業名(細目)	竹田城活用まちづくりプログラム事業	担当部課	竹田城課
予算コード	07 - 01 - 03 - 202 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く《社会増進》		事業開始年度	評価区分	計画
	3	朝来の強みを活かした観光振興	H 25	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	竹田城跡が「天空の城」として有名になる一方で、竹田のまちを含む周辺エリアを訪れる観光客は少ない。周辺エリアの観光スポット発掘を行うとともに、竹田城跡をふくめてより良いおもてなしができるよう必要な施策を実施する。				
事業の実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡親子見学会の実施 ・「AJP48」ほか女子力を活かしたまちづくり提案の促進 ・竹田城跡ライトアップ支援事業 				

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
7.賃金		臨時職員賃金は別計上	
11.需用費	44,604	竹田城跡親子見学会チラシ印刷費	118,800
12.役務費	1,450	竹田城跡親子見学会イベント保険料	
15.工事費	915,840	竹田城跡ライトアップ事業に伴う電源工事	
18.備品購入費			2,114,640
19.負担金補助及び交付金	3,200,000	竹田城跡ライトアップ事業補助金	
合計	4,161,894		2,233,440
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源	4,161,894	2,233,440
合計	4,161,894	2,233,440	
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

[1]節区分	[2]説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
7.賃金	臨時職員賃金は別計上				
11.需用費	各種印刷費(イベントチラシ、まちなかパンフ)			118,800	44,604
12.役務費	竹田城跡親子見学会イベント保険料				1,450
15.工事費	竹田城跡ライトアップ事業に伴う電源工事費				915,840
18.備品購入費	甲冑購入費		1,311,000	2,114,640	
19.負担金補助及び交付金	竹田城跡ライトアップ事業補助金				3,200,000
事業費計		0	1,311,000	2,233,440	4,161,894
[4]正規職員人件費			4,759,000	4,948,000	2,192,722
[5]臨時職員人件費				268,000	
[6]総合計		0	6,070,000	7,449,440	6,354,616
財源内訳	特 [7]国庫支出金				0
	定 [8]県支出金				0
	財 [9]地方債				0
	源 [10]その他				0
	[11]一般財源	0	6,070,000	7,449,440	6,354,616
[12]合計	0	6,070,000	7,449,440	6,354,616	
[13]国庫支出金を除いた比率	#DIV/0!	100.00%	100.00%	100.00%	

4. 成果指標等

[1]事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
竹田城跡入込者数	人		507,589	582,282	416,008

<変化の理由>
竹田城跡への観光客は、平成22年度の約5万人から倍々で増加していたが平成26年度をピークに減少傾向にある。

[2]事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
竹田まちなか宿泊施設利用者数	人		2,967	3,390	4,093

<変化の理由>
全体で見ると増加傾向にあるが、宿泊施設により内容は異なる。ある宿泊施設は、PR方法を変更したとことで増加が見られるが、別の宿泊施設は、竹田城跡の入込者数の減に伴う減少が見られる。

5. 成果単位あたり金額(円)

[1]単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
竹田まちなか宿泊施設利用者数		2,046	2,197	1,553

<変化の理由及びそれへの対応策>
数値自体は小さくなっているが、その年によって実施施策が異なり、一概に比較はできない。

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	昨年度開催された「竹田地域ビジョン会議Ⅱ」において、竹田地域における観光振興施策の必要性が提言された。
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	他市町において観光振興事業は、主に観光協会など民間団体において行われている。
[3]代替サービスの有無	有。和田山町観光協会、NPOあさご創生プロジェクト、朝来市商工会等

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	拡充	竹田のまちの観光振興は、観光客だけでなく地域住民にも波及効果が想定されるものであり、竹田地域ビジョン会議においてもその必要性が認識されている。施策の一環として、平成26年度から朝来市商工会が実施している竹田城跡ライトアップについて、27年度から向こう3年間補助を実施し竹田のまちの観光振興を図っている。一方で、代替サービスが存在し主体の妥当性に疑問が残る。また事業内容も各年で変わっており一貫性がない。事業の目的及び内容について、今一度見直す必要が認められ、抜本的見直しとする。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	1	改善見直し	
B サービス対象の広がり	2	○ 抜本的見直し	竹田城跡ライトアップについて、27年度から向こう3年間商工会に補助を実施し竹田のまちの観光振興を図っている。このライトアップの映像が、台湾や香港のテレビ局で流れたとのことで、大きなPR効果が期待できる。その反面、AJP・武将隊の活動について、今後どうするのか、ビジョンが見えないので、事業の目的及び内容について、再検討が必要と考えるので、抜本的見直しとする。
事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	1	廃止	
C 市民ニーズの把握	3		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	拡充	竹田城跡ライトアップについて、27年度から向こう3年間商工会に補助を実施し竹田のまちの観光振興を図っている。このライトアップの映像が、台湾や香港のテレビ局で流れたとのことで、大きなPR効果が期待できる。その反面、AJP・武将隊の活動について、今後どうするのか、ビジョンが見えないので、事業の目的及び内容について、再検討が必要と考えるので、抜本的見直しとする。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	1	改善見直し	
B サービス対象の広がり	2	○ 抜本的見直し	竹田城跡ライトアップについて、27年度から向こう3年間商工会に補助を実施し竹田のまちの観光振興を図っている。このライトアップの映像が、台湾や香港のテレビ局で流れたとのことで、大きなPR効果が期待できる。その反面、AJP・武将隊の活動について、今後どうするのか、ビジョンが見えないので、事業の目的及び内容について、再検討が必要と考えるので、抜本的見直しとする。
事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	3		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	二次評価のとおりとする。 地域による協力やNPOによる活動について検討が必要である。
継続実施	
改善見直し	
○ 抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	街なみ環境整備事業	担当部課	産業振興部竹田城課
予算コード	08-04-01-300-02		
款:土木費	項:都市計画費	目:都市計画総務費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く社会増進		事業開始年度	評価区分	計画
	5	計画的な土地利用と市街地整備の推進	H 17	事業種別	3.施設等整備事業
事業の目的	旧街道沿いに歴史的な町並みが形成されており、竹田城跡とマッチした城下の整備を行うことで、歴史的・文化的な景観の保存、創出及び快適な生活環境づくりと地域の活性化を進める。				
事業の実施内容等	【竹田地区】 (当初) ・「竹田地区まちづくり推進協議会」活動助成(13名) ・道路美化化工事(市道殿町線:L=280m) ・街灯整備工事(街灯設置7基 竹田新町区) ・修景施設整備助成(3件)及び景観形成審査会(委員4名) (繰越) ・道路美化化工事(市道殿町線:L=230m)				

2.事業費等(単位:円)

区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
8.報償費	16,000	景観形成審査会委員謝礼(@4,000*4人*1回)	36,000
9.旅費	17,110	6,410*1人 6,300*1人+2,200*2人	8,070
11.需用費	79,414	事務用消耗品	556,053
12.役務費	35,500	自然公園申請手数料	2,999,160
15.工事費	78,585,930	工事請負費(道路美化、街灯設置等)	34,778,160
19.負担金補助及び交付金	6,500,000	修景助成(@2,000千円*3件) 協議会助成500千円	6,500,000
22.補償補填及び賠償金			7,287
合計	85,233,954		44,884,730
財源内訳	特定財源	国庫支出金	41,200,000
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		44,033,954
	合計		85,233,954
	国庫支出金を除いた比率		51.66%

街なみ環境整備事業

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
1.報酬	指定管理者選定委員会報酬	103,500	16,000		
8.報償費	研修講師謝礼 景観形成審査会委員謝礼	164,000		36,000	16,000
9.旅費	職員出張旅費	475,120	101,045	8,070	17,110
11.需用費	消耗品 印刷費	756,989	508,050	556,053	79,414
12.役務費	たけだ暮らしの交流館火災保険料 建築申請手数料	141,956	60,352		35,500
13.委託料	申請取付紙 申請取付紙 暮らしの交流館印刷費	6,390,000	32,045,645	2,999,160	
14.使用料及び賃借料	仮設トイレ賃借料	2,252,250	1,050		
15.工事費	たけだ暮らしの交流館 駐車場 美化 街灯工事外	217,300,200	59,223,465	34,778,160	78,585,930
16.備品購入費	情報館消防設備 事務所・展示室用備品		14,397,075		
19.負担金補助及び交付金	まちづくり推進協議会助成 修景整備補助	4,760,000	5,667,000	6,500,000	6,500,000
22.補償補填及び賠償金	電柱移転補償			7,287	
事業費計		232,344,025	112,019,682	44,884,730	85,233,954
[4]正規職員人件費		12,688,000	4,381,000	2,352,000	5,019,000
[5]臨時職員人件費				268,000	
[6]総合計		245,032,025	116,400,682	47,504,730	90,252,954
財源内訳	特 [7]国庫支出金	100,876,000	9,000,000	4,300,000	41,200,000
	定 [8]県支出金			0	0
	財 [9]地方債			0	0
	源 [10]その他			0	0
[11]一般財源		144,156,025	107,400,682	43,204,730	49,052,954
[12]合計		245,032,025	116,400,682	47,504,730	90,252,954
[13]国庫支出金を除いた比率		56.58%	91.97%	90.42%	51.66%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
協議会活動回数	回	8	9	9	10
修景助成件数	件	5	3	4	3
《変化の理由》 平成15年度に「竹田地区まちづくり推進協議会」が発足し、行政と一体となり、整備計画の策定や、フォーラムを開催し、平成17年度より街なみ環境整備事業を実施し、道路美化、施設整備等への協力及び、竹田の街づくりを進めてきており、平成25年に念願であった竹田の観光拠点としての、たけだ城下町交流館がオープンした。平成27年度まち巡事業の第1期最終年度に、「まちづくりシンポジウム」が開催され市内外から多くの参加を得て、成功裏に開催でき、今後も引き続き、事業推進に期待できる。28年度から32年度の5年度で第2期街かん事業に取り組み。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
工事面積	m ²	4,811	1,844	3,092	1,122
竹田城跡入込者数	人	237,638	507,589	582,282	416,008
《変化の理由》 竹田城跡への観光客は、平成22年度の約5万人から徐々に増加していたが平成26年度をピークに減少傾向にある。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
工事面積	50,932	63,124	15,364	80,439
《変化の理由及びそれへの対応策》 観光地におけるブームは2~3年と言われているが、ブーム前に戻るのではなく高止まりさせて維持していくことが重要であり、マーケティングを導入し、適確なPRを実施し、観光客の入込数を維持していく施策の展開が重要である。その一環とした、まち巡事業の実施による、竹田城下町の魅力向上が急務である。				

街なみ環境整備事業

6. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	事業計画で未実施事業の早期着工が要望されている。
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	
【3】代替サービスの有無	

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	補充	平成17年度より平成27年度にかけ第1期街かん事業の取組みをしてきており、観光の核となる城下町交流館等を整備し、事業の進捗を図ってきたが、道路美化・案内看板等の整備が出来ていない所もあり、28年度から32年度の5箇年で第2期街かん事業に取り組む。
A 事業実施の必要性	3	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	補充	平成17年度より平成27年度にかけ第1期街かん事業に取組みがなされた。観光の核となるたけだ城下町交流館等整備が進んできた。しかし、当初計画の事業の積み残しがあり、残事業に限定した中で、第2期まち環事業の継続実施が必要である。
A 事業実施の必要性	3	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
補充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
補充	二次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	まちづくり交付金事業	担当部課	産業振興部竹田城課
予算コード	08 - 04 - 01 - 302 - 02		
款: 土木費	項: 都市計画費	目: 都市計画総務費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く社会増進	事業開始年度	評価区分	計画
5	計画的な土地利用と市街地整備の推進	H 24	事業種別	3.施設等整備事業
事業の目的	豊かな自然環境の竹田城跡を核とした歴史的遺産を活用し、観光産業の振興及び地域経済の活性化を図ることを目的に、魅力あるまちづくりを進める。			
事業の実施内容等	【竹田地区】 (当初) ・市道「立雲峡線」修正委託業務 ・立雲峡公園整備工事(トイレ棟、遊歩道:L=900m) (繰越) ・市道「立雲峡線」ボックスカルバート工事:L=14m			

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
9.旅費	79,230	出張旅費@6,620*2人*6回	59,110
11.需用費	78,284	事務用消耗品	419,882
12.役務費	80,484	確認申請手数料、立雲峡サクラの根の養生	3,713,820
13.委託料	3,240,000	市道立雲峡線修正設計委託	18,201,240
14.使用料及び賃借料	113,508	仮設トイレリース代	
15.工事費	65,959,920	市道立雲峡線ボックスカルバート工事、立雲峡公園工事(トイレ・遊歩道)	142,266,629
22.補償補填及び賠償金			5,644,225
合計	69,551,426		170,304,906
財源内訳			
特定財源			
国庫支出金	35,900,000	社会資本整備総合交付金	42,000,000
県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	33,651,426		128,304,906
合計	69,551,426		170,304,906
国庫支出金を除いた比率	48.38%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
8.報償費	視察謝礼、特急はまかぜ停車式イベント参加謝礼	9,593	74,000		
9.旅費	職員出張旅費	41,700	106,250	59,110	79,230
11.需用費	事務用消耗品、シャトルバス実験消耗品	437,354	1,730,681	419,882	78,284
12.役務費	折込手数料、不動産仲介手数料外	254,273	1,232,908	3,713,820	80,484
13.委託料	設計委託料、測量設計委託料	32,970,627	20,913,197	18,201,240	3,240,000
14.使用料及び賃借料	社会実験シャトルバス使用料外	1,444,037	1,275,750		113,508
15.工事費	山城の郷公園、立雲峡線、観音料収受機整備工事外	4,458,300	171,213,000	142,266,629	65,959,920
17.公有財産購入費	立雲峡線用地外	288,120	1,392,688		
18.備品購入費	AED収納ケース		252,231		
19.負担金補助及び交付金	トイレ等上下水道加入金		1,000,000		
22.補償補填及び賠償金	立雲峡線、水路整備、立木補償、電柱移設補償		1,065,492	5,644,225	
事業費計		39,904,004	200,256,197	170,304,906	89,551,426
[4]正規職員人件費		7,296,000	4,381,000	2,352,000	5,468,000
[5]臨時職員人件費				268,000	
[6]総合計		47,200,004	204,637,197	172,924,906	75,019,426
財源内訳					
特 [7]国庫支出金		30,400,000	60,114,000	42,000,000	35,900,000
定 [8]県支出金				0	0
財 [9]地方債			72,208,000	0	0
源 [10]その他				0	0
[11]一般財源		16,800,004	72,315,197	130,924,906	39,119,426
[12]合計		47,200,004	204,637,197	172,924,906	75,019,426
[13]国庫支出金を除いた比率		23.82%	69.98%	75.34%	48.38%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
協議会活動回数	回	8	9	9	10
まちづくり活動への参加度	人	70	100	100	200

＜変化の理由＞
 平成27年度に、地域住民、商工会、地元商店街、宿泊業者、交通事業者、学識経験者等総勢31名の参加による竹田地域ビジョン会議が開催され、竹田城跡への観光客の入込の実態や、商店街・宿泊施設の現状等の情報共有がなされ、今後のスムーズな事業展開に期待ができる。

【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
工事面積	m	1,105	4,915	1,398	1,809
竹田城跡入込者数	人	237,638	507,589	582,282	416,008

＜変化の理由＞
 たけだ城下町交流館のオープン以降、確実に入込者数が増加している。工事面積の増減は、事業メニューによる変動である。

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
工事面積	42,715	41,635	123,694	41,470
＜変化の理由及びそれへの対応策＞ 市では、竹田城跡だけでなく竹田城下町や立雲峡を一体的にとらえた、竹田地域の観光エリアとして、魅力をアップさせ、観光客の入込者数を増やし地域の活性化に寄与するための施策が展開されており、まち交事業における、市道立雲峡線の道路改良工事の早期完成が、大きな原動力になる。				

6. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	市道立雲峽線の改良工事の早期完成が望まれている。
【2】近隣市町で提供されて いるサービス水準との比較	
【3】代替サービスの有無	

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	平成24年度からまちづくり交付金事業に取組みをしてきており、平成28年度が最終年度。増加する観光客に対応する事業の取り組みが出来た。(公園・遊歩道・市道・駐車場整備等)
事業実施の必要性	3	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
B サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	28年度に市道立雲峽線の拡幅工事、用地買収、サイン整備等に取り組む予定。竹田観光エリアにおける、重要な事業であり、早期完成が期待される。
事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	平成24年度から取り組んできた、まちづくり交付金事業も、平成28年度が最終年度。その間、増加する観光客に対応する事業実施が出来た。(公園・遊歩道・市道・駐車場整備等)
事業実施の必要性	3	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
B サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	28年度に市道立雲峽線の拡幅工事、用地買収等に取り組む。特に、市道立雲峽線の道路改良工事は、竹田観光エリアにおける、重要な事業であり、早期完成により、観光客の入込増が期待される。
事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	二次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	